

童

2022年4月28日.

コゴミ タラの芽 ウド ワラビなどが次々に大地を訪れ、タンポポの絨毯の上を鯉のぼりが泳ぎ着き、今は、次々に草花が咲きほころび、薄ピンクのリンゴの花が咲き始めています。まさに、春爛漫の大地の丘です。

この伸びゆくエネルギーいっぱい大地で、子ども達は、僅かな4月を味わいました。特に、新入生は、不安を抱える中で、大地の魅力ある自然環境、それもただひたすら森や野原を毎日散歩するという暮らしを通じて、自然に大地の生活になじんでいったようです。いきなり、規則や決まり、約束事そしてマニュアル通りの暮らしを、次々に教えられていくよりも、ただただお日様と共に、自由に時間に縛られずに遊ぶ、それも決まりきった遊具でのパターン遊びではなく、自然の一員である子ども達にとっての自然界での遊び。これがあれば、どんな子どもでも、魅力的であるに違いありません。

コロナのため、通常よりも短い4月でしたが、躍動感あふれる春のエネルギーに応援されて、雑木林、田園散歩、ノビル掘り、鯉のぼり遊び、砂場遊び、桜の木の下でのお花見弁当、そして、待望の室内遊び（特に、クレヨンと粘土遊びは、新入生には大人気）を一通り、楽しむ事ができました。

そんな4月を過ごした子ども達は、いよいよ躍動感溢れる5月 大地の本格的な暮らしの開始です。草木が芽吹き、一年中で一番自然界の植物が、空に向かって伸びる時期です。散歩を中心に、新しい世界をどんどん展開していくことでしょう。

待望のおにぎり給食や大地の給食。新しくなったガンガーや焚き火コーナーでの給食も楽しみです。春の山菜や畑の恵みをたっぷり味わいたいと思います。

絵本やお話、そしてお話会なども本格的に開始され、ののほな文庫も本格的に開館されます。メルヘンとファンタジーの世界が開かれます。

保護者会でもお伝えいたしました。大地は、やらないで後悔するよりも、やったもんがち精神です。誰かに勝つのではなく、躊躇したり怖れていたたり弱気だった過去の自分に勝つ 精神です。好奇心を持って、ぜひ主体的に、大地ライフをお楽しみください。そんな人生を、子ども達は 憧れを持って、模倣していくことでしょう！！



【欲しい人生は、自分の手で獲得する】

古い本棚にある本の帯に「欲しいものを与えられるのを待つよりも、自分の手で獲得しよう（人生は 楽しんだ者が勝ちだ）」とあり、その本を取り出して読んでみました。

①欲しいものは 自分で獲得する と決めてしまうと 世の中で怖いものは何もなくなる！！

②人生は楽しんだ者が勝ちだ 自分でそうすることに決めれば 結果は勝手についてくる！！

この2つが、この本の大きな主旨でした。それを、青ちゃんなりの人生に当てはめてみると

①宝くじが当たるのを待つ人生なのか、自分のライフワークを見つけて、それを生業として人生を過ごすのか、誰かに依存して、幸運の女神がやってくるのを待つのか、自分で幸運の女神に会いに行くのか、です。

20代の頃の5年間の保育園勤務時代。勤務を重ねるにつれ、自分の理想、自分自身が幼児だったらこんな環境や保育で嬉しいのだからと、自問自答を繰り返す事が多くなるにつれて、改善や状況改善という石の上にも3年（気の短い青ちゃんには、この座右の書は存在しない）はなく、自分で、大地を作るしかないでしょう！！！！まさに、自分の手で獲得する 理想の女神様に会いに行く という人生のスタートでした。これが、30歳でした。

いや！！ それよりも、もっと大切な事を忘れていました。26歳、人生最大の欲しい者は 自分で獲得したこと、それは もちろん ノンタン母さん。（結婚して40年近くなりますが、今でも巷に、どうして青ちゃんが、ノンタン母さんと結婚できたか なぜ、ノンタン母さんが青ちゃんなりと結婚したのか という疑問が存在している）

自分の手で獲得する為に、もちろん 重箱の下に、千両いや人生の愛を入れて贈りましたが、それは 皆さんも同じでしょうね。

②やらないで後悔するよりも、やってみて失敗してもその時の自分に後悔しないだろう（失敗というイメージはなく成功しかイメージしない強気な青ちゃんですが、失敗の予感、焦っている時や調子こいている時に必ずやってくる）

それは 人生やって楽しんだ者が勝ちだ 一度だけの人生 やらずにどうする 自分が好きなことをやったもん勝ち 誰に勝つのではなく、弱気な過去の自分に勝つ、一度だけの自分の人生の扉を開けない自分に勝つ というイメージでした。

長男が産まれたばかりの31と30歳の夫婦。2人で無職となり、僅かばかりの林檎と米の農家に戻っての生活の始まり。ノンタン母さんは、専業主婦として長男との子育てをのんびりした農村で楽しみ、青ちゃんは、幼稚園開園を夢見て、日雇い建築現場勤務 週末野外教室 長期休みキャンプ 林檎の行商などなど。

将来に対する不安や過去に対する後悔など全く無く、ただただ夢に燃えて、最高に楽しい日々、もしかすると、人生で最高に楽しい、今の季節のような躍動感あふれる時代だったように思えます。まさに、人生楽しんだ者勝ちだ でした。

以上、2つのテーマを実践するには、共通の哲学が存在します。それは、この本にもありましたが、まさに、ほとんど、青ちゃんに当てはまっていてびっくりしました。以下、抜粋します。

①自分の可能性に限界を引かない：身の程知らずにほかならない

同じ人間 できないことはない。平安時代 江戸時代など文明の利器がない時代にできたことが、現代でできないはずがない、やるだけやってみよう という好奇心溢れるやりたすぎる欲張り精神。

②行動に移す：行動力だが、これは無謀 無鉄砲にも通じる

思いついたら 寝てはいられない。時間は限られている中で、早く自分の物にしたい、早く 子ども達を喜ばせたい 驚かせたい などと気が早い 居ても立っても居られない 勝算有りて素早く開始の気性は健在

③めげない：喉元過ぎれば熱さも忘れる

何度も痛い目に遭いながらも めげずに同じ事を繰り返してしまう。生死をさまよう事も多数あったために、いつかやばい結果になると、いつも心配されているだけに、最近は 慎重になってきていると自覚

④優先順位をつける：限られた時間の中でマネージメントして、どれだけのことができるか

⑤集中力を養う：④と同じで、有限の時間と能力の中で欲張って生きる為の不可欠な要素

限られた時間の中で、どれだけの事ができるかを頭の中でマネージメントして、行動して構築していくことを、ライフワークとして、それを実践している時が自己陶醉して最高の幸せであるが、周囲には、人を寄せ付けない不機嫌な鬼のような形相に映るらしい。

中学生の頃、近所のおばあさん（今 生存していれば 110歳位か）に言われた。「シゲルちゃんは 運やだね」と。今のところ、命が続くのは 幸運の一語。幸運の賜 それは、幸運にも人に恵まれた お陰である。感謝！！